

都道府県名	福岡県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	豊前市立千束小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	13
児童数	27	25	36	32	30	33	0	183	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を身に付けた児童を育てる学習指導の創造
～個に応じた指導方法の工夫を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

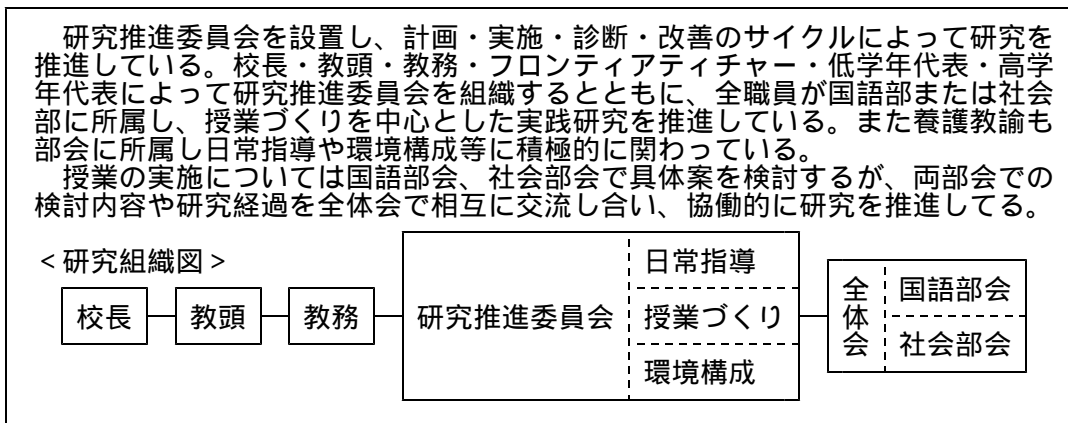
- ・ 1～6年・国語
本校は4年間にわたり英語活動を含むコミュニケーション能力の育成に取り組んでおり、これまでの研究結果からより一層子どもの総合的な言語活動の充実を図る必要性を感じている。そこで国語科学習での言語活動を基盤に据え、確かな学力の定着を図る授業の在り方を研究したいと考えた。
- ・ 3～6年・社会
本校児童に対する実態調査の結果、社会科については学習状況は非常に良好であるが、社会科の学習が好きと答える児童が少ないことが分かった。そこで、児童の知的好奇心や探求心を深めるとともに確かな学力の定着を図る授業の在り方を研究したいと考えた。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「確かな学力を身に付けた児童を育てる学習指導の創造」 研究の見通し（仮説） 国語科・社会科において以下のポイントを工夫すれば確かな学力を身に付けた子どもを育てることができるであろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ポイント1 基礎・基本の習熟を図り、発展的・補充的学習を含んだ 単元構成の工夫 ポイント2 学習展開に応じた評価の工夫</p> </div> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力向上のための全体計画の策定・改善 校長の指導のもと、「学力向上千束小プラン」を策定し学校の教育活動全体で学力向上に取り組んでいる。研究テーマに沿った授業実践を中核とし、本校独自の教育課程の編成・実施・評価、読書活動の推進、家庭との連携の充実、職員の授業実践力の向上を目指す研修等7点を手だてとして共通理解・共通実践を推進している。 ・ 単元構成の工夫 「であう」「ふかめる」「ひろげる」の3つの学習段階に、それぞれ指導法の工夫を位置づけるとともに、「であう」・「ふかめる」段階を中心に補充的学習を組み込み、各単元で身に付けさせたい基礎・基本の定着を図る。また、「ひろげる」段階では学習内容を発展的に活用したり応用したりする学習活動を工夫する。 ・ 評価の工夫 学習展開に応じた評価を実施しながら学習指導の改善を行う。評価活動は教師が行う評価と児童が行う評価を実施し、この両面から児童の学習状況を把握するとともに、自己有用感を高めさせる指導を工夫する。
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 「確かな学力を身に付けた児童を育てる学習指導の創造」 研究の見通し（仮説） 国語科・社会科において以下のポイントを工夫すれば確かな学力を身に付けた子どもを育てることができるであろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ポイント1 基礎・基本の習熟を図り、発展的・補充的学習を含んだ 単元構成の工夫 ポイント2 学習展開に応じた評価の工夫</p> </div> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力向上のための全体計画の改善 「学力向上千束小プラン」の改善に取り組むとともに、共通実践の充実を目指した取組をする。 ・ 補充的学習、発展的学習の工夫 全員に基礎・基本を身に付けさせるための「である」・「ふかめる」段階を中心とした補充的学習の内容と位置づけ方の工夫をする。 「ひろげる」段階での発展的学習については、活用的・応用的な観点からの発展教材の開発の工夫をする。 ・ 評価の工夫 学習展開に応じた評価を実施しながら、子どもの自己有用感を高めさせるための評価の活用について工夫する。
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

発展的・補充的学習を位置づけた単元構成と指導方法の工夫を積極的に行ったことで、個々の児童の学習状況の把握とそれに応じる指導が充実した。

< 国語科の例 >

1・2年生をそれぞれ3分割し、1年生と2年生合同のグループを3つ構成してそれぞれ「お話会」を実施した。この学習活動では子どもの興味・関心に応じた3分割を基本とした。「お話会」の活動は、1年生にとっては話す・聞く活動の基礎・基本を定着させる補充的学習、2年生にとっては発展的学習として設定した。子どもの主体的な言語活動を引き出すとともに個に応じたきめ細かな指導ができ学習状況も良好であった。

1年生の評価結果 A：72%、B：28%、C：0%
2年生の評価結果 A：67%、B：33%、C：0%

追究方法や学習形態に応じた評価補助簿等の工夫と児童自身の評価活動の工夫をしたことで、学習を振り返り修正していく過程で個に応じた指導をすることができた。

< 社会科の例 >

第3学年「スーパーマーケットのひみつ」では、学習の過程で評価カードを使って学習の様子や結果を児童に相互評価させ、その結果から次時の学習課題を決定させることができた。「振り返りカード」の活用によって商店を

選ぶ理由から消費者の生活スタイルに応じる商店の工夫について考えを深めさせることができた。また学習形態に対応させた評価補助簿の形式を工夫し個別の学習状況の把握と補足的な指導につなげることができた。

2. 今後の課題

発展的学習において児童自身が的確に学習課題や学習コースの選択ができるよう学習の様子や結果を振り返り改善策を考えさせる場を取り入れる等、指導の工夫が必要である。
 発展的学習の教材開発において、学習事項の活用・応用の観点から工夫する必要がある。
 補足的学習の定着の状況を捉える工夫を含めた評価活動を工夫する必要がある。
 学力の伸びの比較・分析が必要である。

学力等把握のための学校としての取組

- 1 CRT (目標基準準拠検査)
 - (1) 調査目的 各学級及び児童個々の学習について、指導目標の実現状況を確認するとともに指導の改善に生かす。
 - (2) 実施内容 国語、算数(教科については検討中)
 - (3) 調査時期 毎年5月
- 2 指導方法の工夫に関する実態調査
 - (1) 調査目的 各学級及び児童個々の学習の状況を把握し、つまづきに対応した授業の改善に生かす。
 - (2) 実施内容 算数
 - (3) 調査時期 毎年2月

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 フロンティアスクール実践交流会の開催
 - (1) 日時 平成15年11月11日(火)
 - (2) 場所 豊前市立千束小学校
 - (3) 対象 各フロンティアスクール、豊前市内小・中学校、管内小学校の教職員及び千束小学校保護者
 - (4) 目的 研究成果の普及と研究の深化・充実を図る。
 - (5) 日程

13:00	13:30	14:15	14:25	15:15	15:25	16:15	16:45
受付	公開授業	移 動	開会行事 研究発表	移 動	研究協議 (国語部会) (社会部会)	教科別 ミニ講演	閉会 行事
- 2 研究成果を普及するために、実践交流会の資料として作成した冊子を管内の全小学校へ配布した。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|----------------------------|-------------------|------------|----------|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 6学級以下
13～18学級
25学級以上 | 7～12学級
19～24学級 | | |
| 【指導体制】 | 少人数指導
一部教科担任制 | T・Tによる指導
その他 | | |
| 【研究教科】 | 国語
生活
体育 | 社会
音楽
その他 | 算数
図画工作 | 理科
家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | 有 | 無 | | |